第 2 章

都市づくりの目標

第２章　都市づくりの目標

１．泉佐野市の将来都市像

本市の将来像は、第５次泉佐野市総合計画において次のように掲げられており、都市計画マスタープランにおいてもこれを基軸として本市が目標とするまちづくりの実現をめざします。

泉佐野市の将来都市像

世界に羽ばたく国際都市　泉佐野

～ひとを支え　ひとを創り　賑わいを創る～

本市は、関西国際空港の玄関都市として、国内外の様々な地域や人々との経済的・文化的交流を推進し、またその特性を活かした都市基盤を構築してきました。

一方で、人口減少社会の到来や少子高齢化の進行をはじめ、地域コミュニティの強化や、社会・自然・経済環境の変化に加え、2015年に国連において採択されたＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）への取り組みなど、多様な課題に直面しています。

このような状況の克服に向けて、本市の強みや特性を更に発展させ、持続可能なまちづくりを推進していくことが不可欠と考えます。

そのためには、人を支え、人を創り、人と共に賑わいを創造するまちづくりを進める必要があります。

そして、賑わいをエネルギーに代え、世界へ飛躍する国際都市をめざし、本市の将来都市像とします。

2．将 来 目 標 人 口

泉佐野市都市計画マスタープランの将来目標人口は、「泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び泉佐野市人口ビジョン」（平成27（2015）年10月策定）を考慮して設定された「第５次泉佐野市総合計画」に基づくものとします。

ただし、個別施策の目標設定・運用においては、必要に応じて社人研の人口推計も考慮することとします。

表2-1　2028年の将来目標人口

2010 年（平成 22 年）	2015 年（平成 27 年）	2028 年	2030 年
100, 801 人	100, 966 人	102, 209 人	102, 341 人

資料：第５次泉佐野市総合計画

表2-2　将来人口推計のシミュレーション

パターン１	全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計（社人研推計準拠） （※ 2040 年までの出生、死亡移動等傾向が 2040 年以降も継続する想定）
ケース１	パターン１（社人研推計準拠）をベースに、2040 年に合計特殊出生率が人口置換水準の 2.07 まで上昇し、人口移動（社会増加）が均衡
ケース２	ケース１に加えて、人口移動（社会増加）が毎年 0.4%上昇

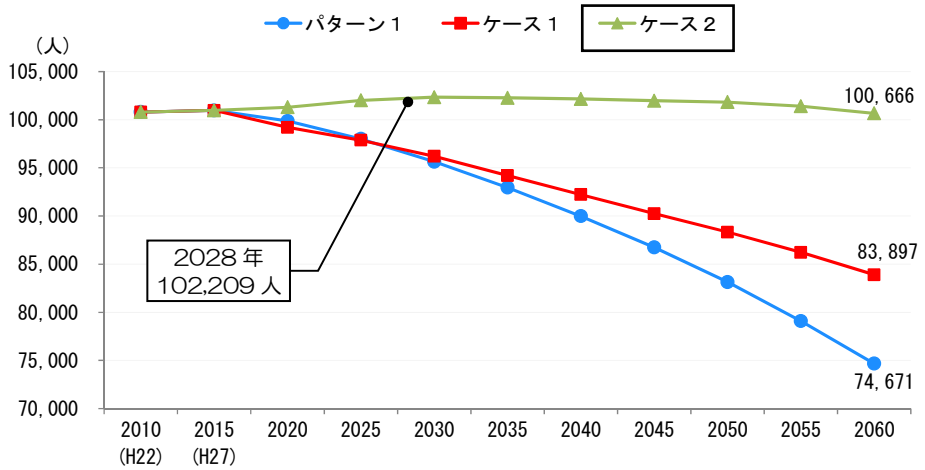

図2-1　将来人口推計のシミュレーション

表 2-3　将来人口推計のシミュレーション

（人）

	2010 (H22)	2015 (H27)	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
パターン１	100, 801	100, 966	99, 876	98, 014	95, 649	92, 958	89, 991	86, 736	83, 144	79, 081	74, 671
ケース１	100, 801	100, 966	99, 205	97, 869	96, 201	94, 208	92, 230	90, 246	88, 332	86, 222	83, 897
ケース２	100, 801	100, 966	101, 296	102, 011	102, 341	102, 271	102, 158	101, 981	101, 832	101, 408	100, 666

※2010年（平成22年）、2015年（平成27年）は、総務省「国勢調査」
※2020年から2060年は、「泉佐野市人口ビジョン」

資料：第５次泉佐野市総合計画

３．都 市 づくりの目 標

第５次泉佐野市総合計画では、本市の将来像を実現するための方向性として、６つの基本方針を示しており、これらを踏まえ、都市づくりの課題を克服し、本市の良さを更に伸ばすための都市づくりの目標を以下のように設定します。

１．個性と魅力の向上による世界につながる都市づくり

● 国際交流都市の形成

日本の玄関口の一つである関西国際空港を有する立地条件を活かし、りんくうタウンを核に、国際交流都市の形成を推進し、本市の魅力の向上につなげます。

● 歴史・文化をはじめとする地域資源の活用による観光振興

増え続ける訪日外国人旅行者の取り込みに向けて、国史跡日根荘遺跡やさの町場などの豊富な地域資源を活用した新たな魅力づくりや情報発信、人材育成によるおもてなし力を向上させ、国内外の観光客を本市に呼び込みます。

また、宿泊を伴う外国人旅行者をターゲットに、受け皿となる宿泊施設の整備や多言語サインの整備などにより、ホスピタリティの向上を図り、滞在時間の長時間化とリピーターの拡大をめざします。

● 良好な都市景観の形成

りんくうタウンや泉佐野駅などの本市の中核をなす拠点を中心に、国内外からの玄関都市にふさわしい魅力ある都市景観の形成を図ります。

２．市内外の連携を強化するネットワーク型都市づくり

● 拠点機能の分担と連携

各拠点の相互連携を前提に、地域特性と拠点の役割に応じた都市機能を集積することで、効率的な都市づくりを図ります。

● 交通ネットワークの強化

高齢化の更なる進行が見込まれる中で、「歩く」ことの重要性が認識されつつあり、それにあわせて都市の姿を変えていくことが求められています。多くの市民がより自立的に、また、活動的に暮らせるまちの実現に向けて、拠点間の総合的な交通体系の確立や、公共交通の利便性の向上、道路網の整備を推進することで、市内拠点間や市内外の移動の効率化や連携の強化を図ります。

３．安全で人と環境にやさしい持続可能な都市づくり

● 都市防災の推進

頻発化・激甚化する自然災害に備え、都市インフラの整備や都市防災機能の強化による防災を推進するとともに、最大クラスの災害に対しては、被害をできる限り軽減できるよう、密集市街地の解消、空家対策の推進、耐震改修の促進等、事前の備えや地区の防災力の向上に向けた対策や情報伝達手法の検討など、ハード・ソフト対策を推進します。

● 人にやさしい都市づくり

誰もが安全で安心して暮らせるよう、道路や施設のバリアフリー化などの安全対策や、住環境の充実を図ります。

● 自然環境の保全・活用

森林や河川、ため池等の自然環境は、地球温暖化対策や防災・減災、低炭素まちづくりに寄与することから、森林環境や水辺環境の保全・活用を図ります。

● 都市農地の保全・活用

生産緑地をはじめとする市街化区域の農地は、市街化調整区域の農地と合わせて、気象緩和や災害抑制だけでなく、本市の農業を支える貴重な土地となっています。このような機能を維持するため、地域農業の振興と合わせた農地の維持・保全を図ります。

● 循環型都市づくりの推進

日常生活における、温室効果ガスの排出抑制や、廃棄物の削減・再資源化、公害防止対策を推進することで、環境負荷の少ない持続可能な都市をめざします。

４．快適で住み続けたくなる都市づくり

● 都市施設の整備・充実

上下水道やごみ処理施設等の供給処理施設や、公園・緑地、河川・ため池、道路等の都市施設の整備や長寿命化を図ることで、快適で利便性の高い都市をめざします。

● 良好な住環境の維持・形成

地域の状況を踏まえながら、良好な居住環境を維持・形成することで、誰もが住んでみたくなる、住み続けたくなる都市をめざします。また、少子高齢化とともに懸念されている空家への対策として、利活用を促進し、地域活性化を図ります。

５．すべての人が主体となる協働による都市づくり

● 協働体制の構築

これからの都市づくりにおいては、計画から運営、評価に至るまでの都市・地域マネジメントを市民やＮＰＯ、企業、行政等が協働する必要性があるため、都市づくりの協働体制の構築を検討します。

● 戦略的な自治体運営の推進

地方分権、市町村への権限委譲が進み、自らの住む地域のことは自らの責任で決定できるようになりつつあります。今後、人口減少、少子高齢化の進展が予測される中で、協働体制による戦略的で効率的な自治体運営を推進していく必要があります。

■「第５次泉佐野市総合計画」と「泉佐野市都市計画マスタープラン」の関係

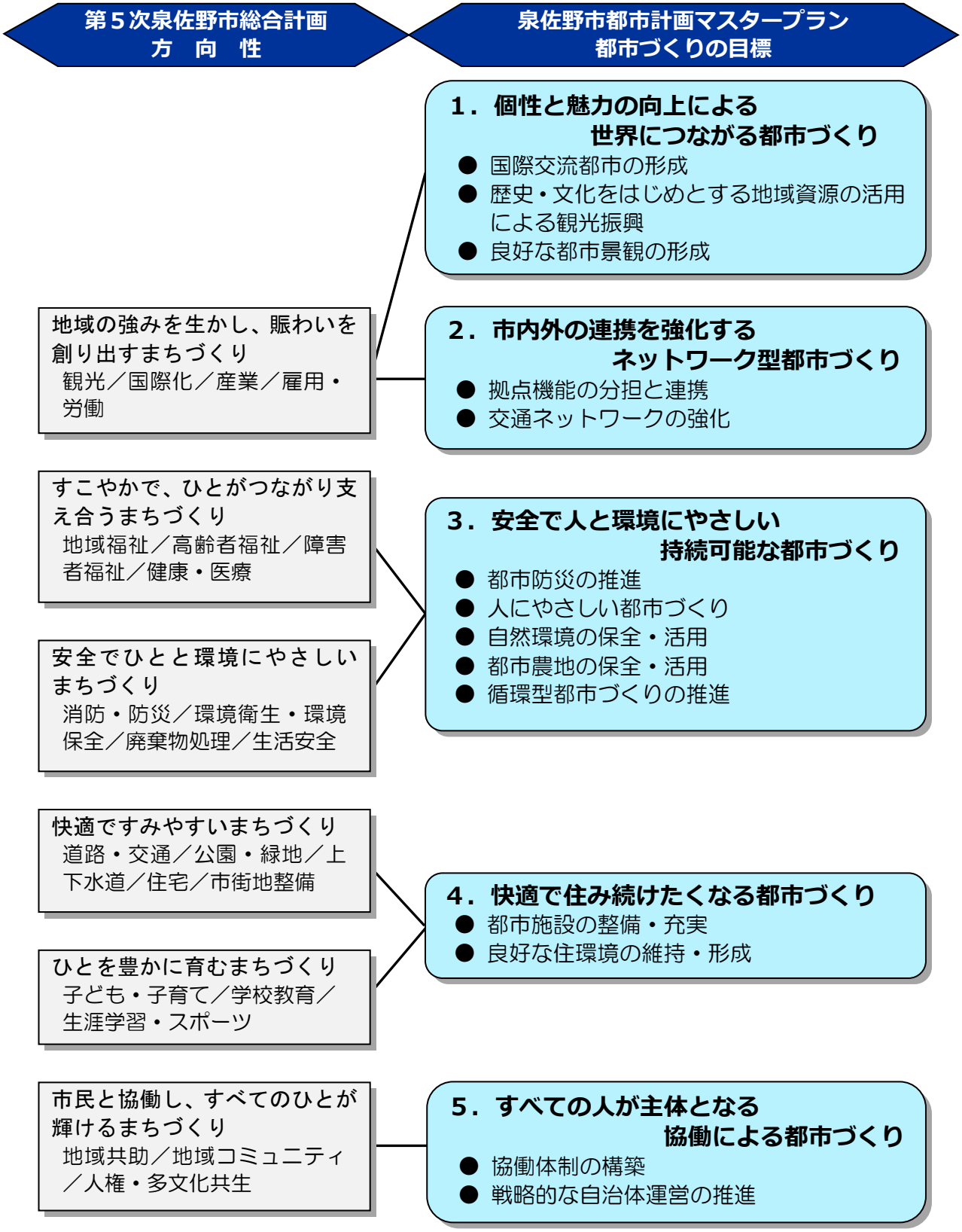

図2-2　「第５次泉佐野市総合計画」の方向性と「泉佐野市都市計画マスタープラン」の都市づくりの目標の相関関係

4．将 来 都 市 構 造

都市づくりの目標の実現に向け、将来の本市の骨格となる都市構造を構成する都市の「拠点」と「軸」を設定します。

1．拠点の設定

本市の臨海部は、関西国際空港、りんくうタウン等の国際的な機能を有する拠点であり、このような立地条件を活かし、日本の玄関口の一つとして、国内外の交流や賑わいの拠点としての機能が求められています。一方で内陸部や丘陵部、山間部にかけては、市民や地域住民の日常生活を支える機能や、市域を越えた広域的なサービス機能など、地域特性に応じた拠点の形成が求められています。

拠点の設定にあたっては、位置や各拠点が担うべき都市機能などを定め、それぞれの役割分担を明確にします。

■拠点

拠　　点		位　　置	概　　要
市民生活を中心とした拠点	行政・文化拠点	市役所周辺	本市の行政機能及び文化機能が集積する地区。市民を中心に利便性の向上に向けて、中枢機能の更なる充実を図ります。
	中心拠点	泉佐野駅周辺	商業・業務機能が集積し、本市最大の交通結節点を有する地区。本市の中心にふさわしく、市内外の人の利便性の向上に向けた都市機能の充実を図ります。
	地域拠点	日根野駅周辺	中心拠点に次ぐ交通結節点。地域住民の日常サービス施設を有する地区として、商業、業務、居住機能の計画的な誘導を図ります。
	生活拠点	東佐野駅周辺 熊取駅周辺 長滝駅周辺 鶴原駅周辺 井原里駅周辺 羽倉崎駅周辺	地域交通の結節点であり、周辺住民の日常サービス施設を有する地区。商業・業務機能の維持・誘導や、良好な住宅地の形成など、地域特性に応じた拠点の形成を図ります。
市域を越えた国内外を見据えた拠点	国際交流拠点	関西国際空港 りんくうタウン	日本の玄関口として、商業・業務機能等が集積する地区。国内外との交流やにぎわいの創出に向けて、更なる機能充実を図ります。
	レクリエーション拠点	りんくう公園 泉佐野丘陵緑地 中地区 末広公園 南部公園	本市のスポーツ・レクリエーションの中核を担う拠点。スポーツや遊びの機能をはじめ、アメニティ機能や防災機能等の充実を図ります。
	観光拠点	日根荘・大木地区 犬鳴山温泉	本市を代表する観光、歴史・文化資源が集積する地区。周辺の恵まれた自然環境との調和を図りながら、集客機能の充実を図ります。
	流通・生産拠点	食品コンビナート 泉佐野丘陵地区 （旧泉佐野コスモポリス用地）　東地区・西地区	本市における流通・産業機能の拠点。関西国際空港や阪和自動車道に近接・直結する立地条件を活かし、本市の産業の拠点として充実を図ります。

２．軸の設定

都市の軸は、市外や拠点間の円滑な移動を支えるとともに、有機的なつながりをもたせるものとして、都市の骨格の形成をめざします。

軸の設定においては、道路、河川を中心に、機能や特性に応じて定め、それぞれの役割を明確にします。

■軸

軸		名　称	整備状況	概　要
国土連携軸 （国土幹線道路）		阪神高速湾岸線 関西空港自動車道 阪和自動車道	整備済	国土広域連携を担う自動車専用道。
		（仮称）京奈和関空連絡道路	構想中	
広域連携軸 （広域幹線道路）		国道 26 号 大阪外環状線 大阪臨海線 泉佐野田尻泉南線 大阪岸和田泉南線 堺阪南線 大阪和泉泉南線	整備済	都市間の連携を担う主要幹線道路。市内外のネットワークの充実を図ります。
		泉州山手線	未整備	
公共交通軸		ＪＲ阪和線・関西空港線 南海本線・空港線	整備済	鉄道軸を位置づけ、公共交通の利用促進を図ります。
シンボル軸	泉佐野シンボル都市軸（地域幹線道路）	泉佐野土丸線～泉佐野打田線	一部未整備	本市の様々な施設や機能をつなぐ骨格。整備により、未整備区間のネットワークを促進し、円滑な交通の流れを確保するとともに、本市のシンボルとなる都市景観の形成を図ります。
	国際都市軸（広域幹線道路）	泉佐野中央大通線	整備済	関西国際空港と市内をつなぎ、将来的には和歌山県の京奈和自動車道とのネットワークをめざす都市軸。長期的な視点で沿道の土地利用が国際的な交流に寄与することをめざします。
水とみどりの軸		樫井川 佐野川 見出川 りんくうタウン沿岸部	―	本市の公園・緑地や河川・ため池等を位置づけ、本市の自然環境の保全とレクリエーション機能のネットワーク化を図ります。

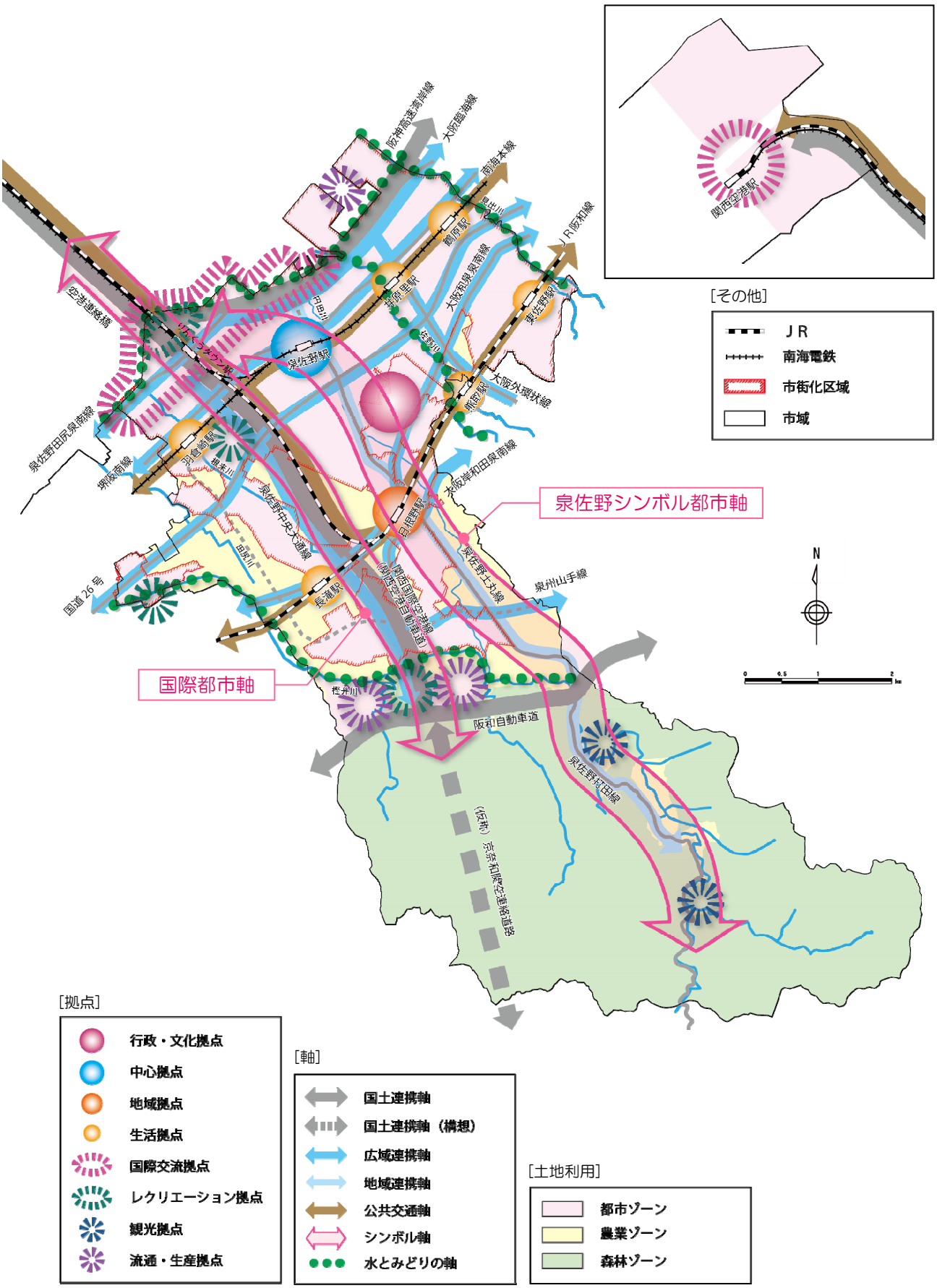
泉佐野シンボル都市軸
国際都市軸
関西空港駅
[その他]
ＪＲ
南海電鉄
市街化区域
市域
N
[拠点]
行政・文化拠点
中心拠点
地域拠点
生活拠点
国際交流拠点
レクリエーション拠点
観光拠点
流通・生産拠点
[軸]
国土連携軸
国土連携軸（構想）
広域連携軸
地域連携軸
公共交通軸
シンボル軸
水とみどりの軸
[土地利用]
都市ゾーン
農業ゾーン
森林ゾーン

図2-3　将来都市構造図